



第2回 地域振興補助金活用事業報告会

【問】 地域振興課
☎ 0854-40-1013

地域振興補助金制度とは、「市民と行政の協働によるまちづくり」を提唱する雲南市が、市民一人ひとりが豊かに暮らせる地域社会の実現をめざし、地域や市民の皆さんが自主的に企画・提案し取り組む活動に要する費用を補助する制度です。平成18年度は、地域自主組織（90事業）、まちづくりグループ（90事業）、NPO法人（7事業）により、豊かな地域社会の実現に向けた積極的な取り組みが行われました。（地域振興補助金交付額は4,617万円でした。）



加本 侑二 さん

「田舎暮らし体験ツアー」や大阪府吹田市で行った「UIターン呼びかけ交流会」などの実践結果について発表されました。

パネルディスカッション

パネルディスカッションで

が全体的な広がりを見せることへの可能性を示唆する意見や、今後の活動財源の確保を不安視する意見が出されました。財源確保問題についてはパネリストらの関心も高く、「費用対効果などを考慮した事業展開」や「地域自主組織、まちづくりグループなどが連携し、互いの機能を補完した総合的な活動展開」が必要であるなど、今後活動を進める上での一つの方向性が示されました。

基調講演

「地方における地域社会変革とベンチャーの取り組み」と題して、島根県立大学講師



多々納 正義 さん

6月9日、チエリヴァホールで第2回地域振興補助金活用事業報告会が開催され、事例発表やパネルディスカッションなどが行われました。

事例発表

その活動が高く評価されている「日本たまごかけごはんシンポジウム実行委員会」（3月14日 地域づくり総務大臣表彰受賞）と「海潮地区振興会」（3月1日 県民いきいき活動奨励賞受賞）の2団体から取り組みが報告されました。

実行委員会の多々納正義さん、昨年度開催したシンポジウムの様子を紹介しながら、「地域住民の理解を得ながら活動に発展性を持たせること」や「自立した運営を行うための財源確保（現在は、地域振興補助金を利用）」などが市民活動を維持・発展させていく上での課題であると話されました。



多々納 正義 さん



の松永桂子先生にご講演いただきました。松永先生は、桜江町の桑の葉を使った商品開発などを例えに、地域資源を生かした特産品販売などで利益を追求し、人々の生活を豊かにするコミュニケーションビジネスの可能性について話され、補助金交付終了後の活動財源確保の観点からも「ソーシャル・エンタープライズの視点を市民活動に取り入れてはどうか」と提案されました。

ソーシャル・エンタープライズとは...

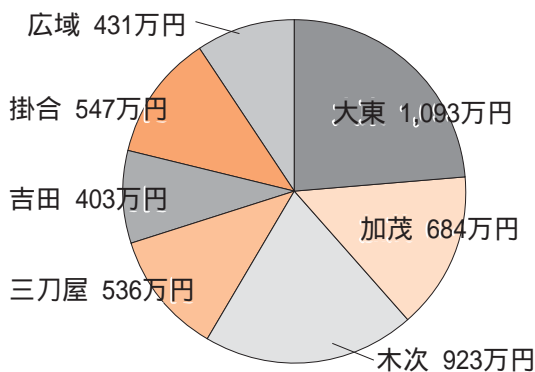
社会的企業とも呼ばれます。ソーシャル・エンタープライズが一般の企業と異なるのは「社会的課題の解決」を第一の目的としている点です。目的達成に向けた事業活動を持続するための財源確保手段として、地域の特性を生かした利益追求活動を行います。



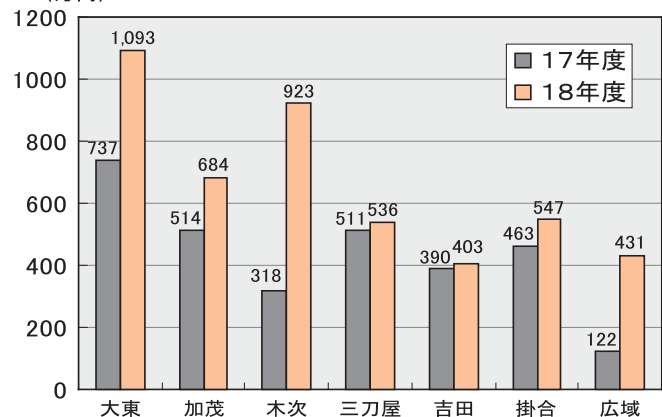
松永 桂子 先生

グラフで見る地域振興補助金

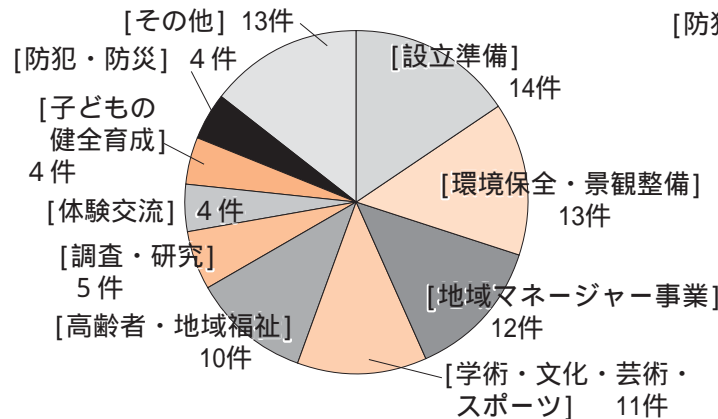
地域別補助金交付額



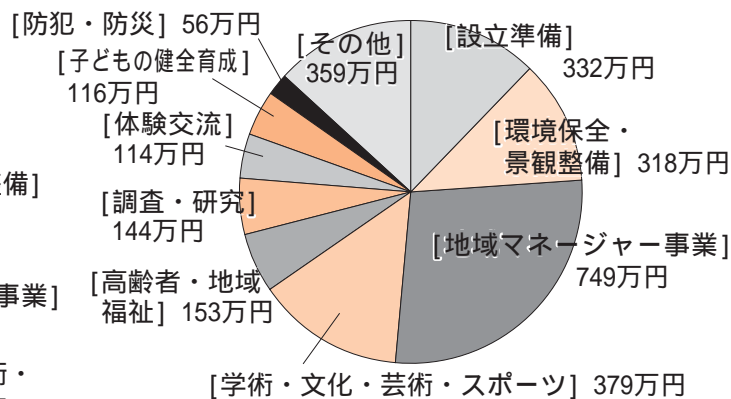
地域別補助金交付額の比較



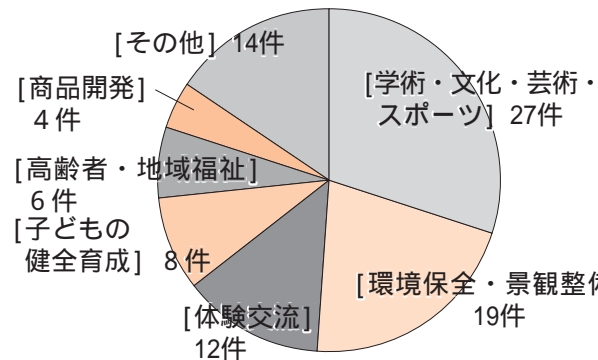
事業内容別事業件数 [地域自主組織]



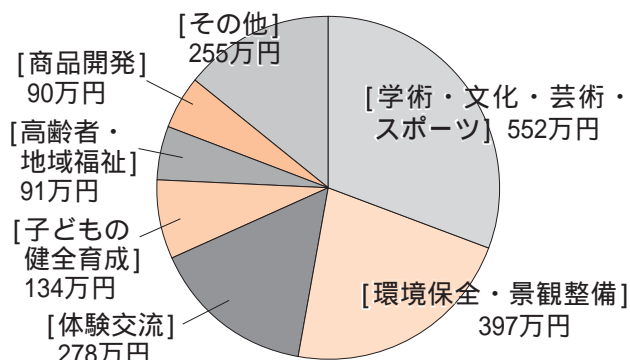
事業内容別補助金交付額 [地域自主組織]



分類別事業件数 [まちづくりグループ]



分類別補助金交付額 [まちづくりグループ]



NPO法人への補助金（100万円）は設立、運営に対するもので、グラフを省略しています。各事業への補助金交付状況については、雲南市ホームページの「地域振興補助金」コーナーに掲載しています。